

【つくば市長×CYBERDYNE(株)社長×(株)Doog 社長】

除菌ロボット導入に向けた三者意見交換

(五十嵐市長)

新型コロナウイルスの感染拡大防止は人類共通の大きなテーマ。皆さまのような最先端にいる方々の努力により、感染拡大防止の新しいテクノロジーが生まれていることに感謝している。

(CYBERDYNE 山海社長)

自治体では初めて除菌ロボットを活用していただくことになった。市民の方々の目にもつくば市の取り組みとしてアピールできればよい。

(D o o g 大島社長)

市役所と対話することで市内ショッピングモールでの実験や今回の導入につながった。来客用の椅子がある場所などで活用してもらい、皆さまの安心安全に貢献していきたい。

—開発のきっかけについて

(CYBERDYNE 山海社長)

2月のクルーズ船のニュースが開発のきっかけとなった。既に自律走行型の清掃ロボットの技術があったので、それに除菌剤噴霧機能を追加する形で迅速な開発を目指し、実際に3月には羽田空港に導入された。

(D o o g 大島社長)

シンガポールに子会社があるので先行して3月から取組を開始した。シンガポールでは除菌剤を噴霧する機能を持たせていたが、布地の椅子等への除菌方法を考えた結果、日本では紫外線照射での除菌方法にいきついた。

(五十嵐市長)

どちらの企業もベースの技術があったから、このように臨機応変にできたのだと感じる。また迅速な開発速度にスタートアップ企業の強みが出ていると感じる。

—新型コロナウイルスで今後の社会はどのように変わるか？

(CYBERDYNE 山海社長)

「人と人」から「人とロボット」が接触する機会が増えることにより、非対面・非接触系のロボット技術が大きく貢献できる時代になっている。社会の在り方に一石を投じるような技術により次の新しいSDGsの形が見えてくるのではないかと思う。

(D o o g 大島社長)

今後もロボットに求められる能力がどんどん変わっていく。新型コロナウイルス感染症対策についてはまだまだ施設運営者も悩みながらやっているが、運用方法を含めた除菌業務での活用の手ごたえをなるべく早期に生み出していきたい。

【つくば市長×CYBERDYNE(株)社長×(株)Doog 社長】

—今後のコロナ共生の時代に行政に期待することは？

(CYBERDYNE 山海社長)

一番先に自治体で先進技術の導入が始まるインパクトは大きい。今回も「つくば市が導入している」という事実によりひとつのハードルが超えられた状態になるため、黎明期のテクノロジーが次のステップに進むための橋渡しに効果的だと考えている。

(D o o g 大島社長)

公共施設に限らず施設の方は除菌に苦慮されている。今回の除菌ロボットの運用にもいろいろなパターンが考えられると思うが、それらを行政で情報発信をしていただけるのはありがたい。

(五十嵐市長)

今回、新型コロナウイルスの最大のテーマの一つである感染対策に際して、こういうアプローチをすれば、人の手による消毒・除菌の負担を軽減できるというメッセージを示していく。そのことで市民の方も安心感を得ることにつながる。ぜひこのような素晴らしい製品を我々も全力でPRしていきたいし、街が実装の場としていろんな人に注目される努力をしていきたい。